

近世・近現代における 山形市蔵王上野の文書管理

竹原 万雄
TAKEHARA Kazuo

近世・近現代における山形市蔵王上野の文書管理

Document Management of Zao-uwano, Yamagata City in the Early Modern and the Modern Era

竹原 万雄 TAKEHARA Kazuo

要　旨

『役場諸帳簿并諸道具附送帳』は、明治16(1883)年の戸長交代時に地区共有の文書を引き継ぐべく作成された。本論では、本文書の分析および山形市蔵王上野地区に伝存している「山形市蔵王上野文書」と照合することで、近世・近現代における当該地区の文書管理について検討した。文書管理の画期を確認できたのは天明8(1788)年であり、幕府預地になるにあたってこれまでの年貢や御触書などの情報を整理していた。また、文政前期以降に、少なくとも一度は「引継目録」を作成しており、その時に付した番号で文書を管理していた。その後、どこかの段階で改めて「引継目録」を作成し、新たに文書番号を付けなおしている。その目録が『役場諸帳簿并諸道具附送帳』であるのか、あるいはそれよりも古い段階で作成したものかは判然としないが、いずれにしても、そこで付けた番号で管理していた。明治16(1883)年から昭和14(1939)年までは、『役場諸帳簿并諸道具附送帳』を使用して戸長・区長交代時に文書を引き継いでおり、その際、文書の選別が行われることもあった。また、昭和63(1988)年には「上野史作り」のための内容調査が行われ、その際に、一部の文書を紐でまとめるなどの整理がなされたものとおもわれる。さらに、平成26(2014)年からは本学で目録の作成を開始し、現在に至っている。以上のような文書管理の歴史は、「山形市蔵王上野文書」を活用するにあたっての基礎的情報になるであろう。

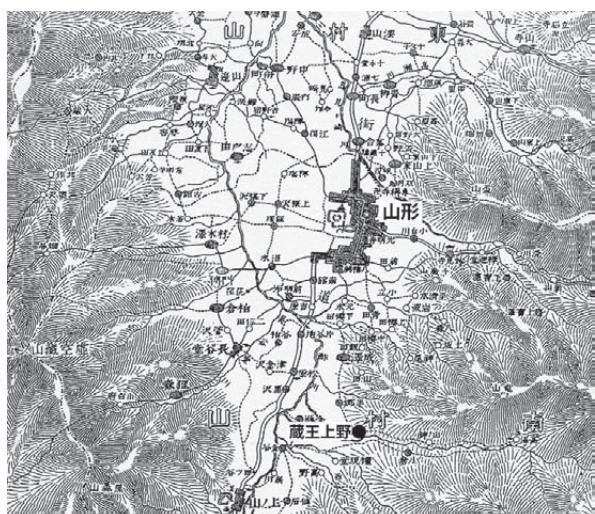
キーワード: 山形市蔵王上野　引継目録　文書管理

1. はじめに

本論の目的は、近世・近現代における山形市蔵王上野地区の文書管理の歴史の一端を明らかにすることにある。山形市蔵王上野は、滝山西部の丘陵地帯に位置し(【図1】参照)、江戸時代は上野村であった⁽¹⁾。江戸期の領主の変遷を確認すると、はじめ最上氏領、元和8(1622)年山形藩領、延享3(1746)年下総佐倉藩領、同4(1747)年陸奥棚倉藩領、宝暦13(1763)年から再び佐倉藩領となる。その後は、藩主・堀田正順^{まさなり}の大坂城代就任にともなう村替により天明8(1788)年から寛政10(1798)年に幕府預地になる期間を除き、幕末まで佐倉藩領であった⁽²⁾。現山形市域は頻繁に領主がかわることが江戸期の特徴といえるが、蔵王上野も同様であったといえよう。

統いて、生業についてみると、寛永13(1636)年の保科氏領地目録では高949石余、元禄元(1688)年の免定によると高1,131石余、小物成として漆木役27貫1文・青苧役392文・山守役4貫400文などを上納していた。「天保郷帳」には1,018石余

とあることから、江戸期を通して1,000石前後で推移し、現在の景観からも察せられるように山林と耕地を利用した生業形態であったことがうかがえる。



【図1】山形市蔵王上野地区位置図

(「輯製二十万分一図 山形県全図」(明治17年)
〔平凡社地方資料センター編『日本歴史地名大系 第六巻
山形県の地名』(平凡社 1990年)付録〕より作成)

明治期以降は、明治11(1878)年に南村山郡に属し、同22(1889)年に堀田村の大字となる。その後、昭和25(1950)年に蔵王村の大字、昭和31(1956)年に山形市蔵王上野となり、現在に至っている。

蔵王上野には、地区で代々受け継がれて来た共有(区有)文書群である「山形市蔵王上野文書」が残されている。本学では、平成26(2014)年7月からその調査に関わっており(【写真1】【写真2】参照)、現在でも調査は継続中である。なお、本調査は、当時、本学で取り組んでいた文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「環境動態を視点とした地域社会と集落形勢に関する総合的研究」の一環として行ってきた。

「山形市蔵王上野文書」は、現在、上野ふれあいプラザ21敷地内の蔵に収蔵されているが(【写真3】参照)、それ以前は文書の消失を避けるために区長が自宅の蔵で保管していた。区長を交代する際には、文書を入れた行李4、5個程度を移動させるかたちで引き継いでいた。地元の方が把握している範囲では、大正元(1912)年の区長就任以降の仕組みであるという。蔵が建てられたのは平成11(1999)年であり、それ以降は、この蔵のなかで保管されている⁽³⁾。



【写真1】木箱に収められた文書



【写真2】調査風景



【写真3】「山形市蔵王上野文書」が収められている蔵



【写真4】『役場諸帳簿并諸道具附送帳』

蔵には複数の木箱と4つの書類棚がある。平成29(2017)年までには、主に江戸から明治期の文書がまとまっている2つの木箱と1つの書類棚上段に収められている文書を整理し、『山形市蔵王上野文書目録』⁽⁴⁾としてPDFでまとめた。そこに掲載した文書の総点数は986点であり、江戸期のものが471点、明治期のものが118点、それ以降が157点、年代不明のものが240点であった。残りは昭和・平成時代のものが多くあり、現在、整理をすすめているところである。

こうした調査のなかで目に留まったのが『役場諸帳簿并諸道具附送帳』(史料番号:棚1-2-2)である(【写真4】)。この文書は、蔵王上野に関する文書や道具が書き上げられた、いわゆる「引継目録」である。『山形市蔵王上野文書目録』の解題「地区の概要および文書伝来の経緯」のなかで中村只吾氏がすでに紹介しているが⁽⁵⁾、まさに「当地区における文書の保存・管理に関する姿勢や歴史的背景が見事に表れた史料」といえる。そこで本論では、中村氏の研究を参考にしつつ、さらに『役場諸帳簿并諸道具附送帳』の分析および「山形市蔵王上野文書」との照合をすすめ、近世・近現代における山形市蔵王上野の文書管理の歴史の一端を明らかにしたい⁽⁶⁾。

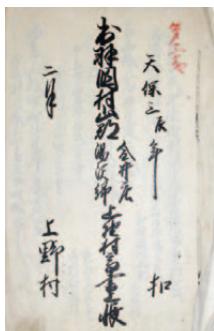
2.『役場諸帳簿并諸道具附送帳』の概要

『役場諸帳簿并諸道具附送帳』の表紙には「明治十六年」「南村山郡上野村」「高橋治右衛門代 後役金子京助」と記されている（【写真4】参照）。表紙をめくると「壱番」から順に番号を付して文書名が書き上げられており（【写真5】参照）、この書き上げられた文書こそ代々引き継ぐべきとされたものということになる。「山形市蔵王上野文書」の中には、書き上げられた文書に該当するものが多数見受けられ、それらの文書の表紙や端裏書などには『役場諸帳簿并諸道具附送帳』で付された番号が記されている（【写真6】参照）。なお、書き上げられた文書に付された番号は「第三一三号」まであるが、抜け番（20・32・64・71・73・91・135・198・199・208・231～233・238・239・244・245・247・248・258）や番号が付されていない文書もある。

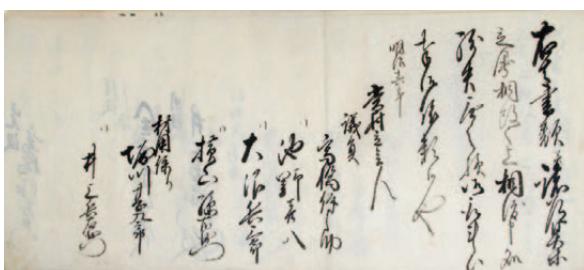
続いて帳簿の後半部をみてみると、以下のようにある（【写真7】参照）。



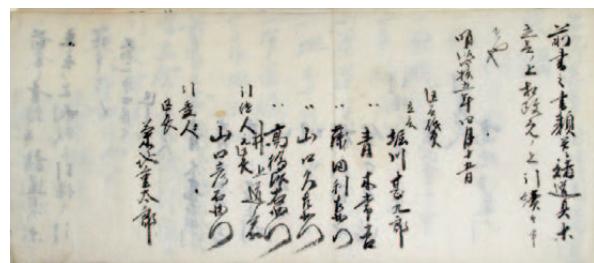
【写真5】『役場諸帳簿并諸道具附送帳』



【写真6】『出羽国村山郡 金井庄 湯沢郷 上野村高書上帳』
《史料番号:1-2-6》



【写真7】『役場諸帳簿并諸道具附送帳』



【写真8】『役場諸帳簿并諸道具附送帳』

右者書類并諸道具等、立会・相改之上相渡申処、紛失無之様御取斗ひ奉御依頼候也

明治十六年

当村立会人	議員	高橋伊之助
同		池野喜八
同		大沼兵三郎
同		横山孫右衛門
村用係り		堀川甚九郎
同		井上兵右衛門
先役		高橋治右衛門
後役 戸長		金子京助殿代
用係り		井上兵右衛門殿

上記の文言と表紙の情報から、本書は明治16(1883)年の戸長交代の際、先役である高橋治右衛門が後役である金子京助へ文書や道具などを引き継ぐために作成されたことがわかる。また、引き継ぎの際には「議員」と「村用係り」による立会があったことも確認できる。引き継ぎを戸長だけに任せていなことからも、村にとって文書がいかに重要なものであったかがうかがえよう。

加えて、興味深いのは、この文書が明治16(1883)年以降の引き継ぎにも使用されていたという点である。先ほど紹介した明治16(1883)年の文言に統いて、【写真8】のような文書が綴じられている。これは、明治45(1912)年の区長交代の場面で記されたものであり、明治16(1883)年以降も本文書を使って文書の引き継ぎが行われていたことを示している。こうしたや

【表1】引継人・引受人等の肩書一覧

年月日	立会人肩書	引継人肩書	引受人肩書
	議員 4名 村用係り 2名	先役	後役 戸長代用係り
明治 16(1883)年			
明治 45(1912)年 4月 15 日	区会議員 6名	元区長	区長
大正 3(1914)年 7月 20 日	区会議員 7名	先々区長	(名前のみ)
大正 8(1919)年 4月 18 日	区会議員 7名	区長	(名前のみ)
大正 9(1920)年 4月 14 日	区会議員 6名	(名前のみ)	(名前のみ)
大正 12(1923)年 4月 24 日	区会議員 4名	(名前のみ)	区長
昭和 3(1928)年 2月 12 日	区会議員 7名	(名前のみ)	区長
昭和 8(1933)年 12月 28 日	区長代理 1名 評議員 10名	前区長	区長
昭和 14(1939)年 4月 10 日	区長代理 1名 評議員 11名	前区長	区長

※『役場諸帳簿并諸道具附送帳』より作成。

り取りは、明治45(1912)年以降も確認でき、昭和14(1939)年まで8回の区長交代の場面で本書が使用されたことがうかがえる。その際の立会人・引継人・引受人の肩書などを整理したものが【表1】である。昭和14(1939)年まで常に立会人を置きながら文書の引き継ぎがなされてきたことがわかる。

さらに、改めて【写真5】をみると、書き上げられた文書の周囲に無数の捺印があることに気づく。これらは、引き継ぎの際に文書一点一点を確認しながら捺されたものであろう。こうして蔵王上野では、明治16(1883)年以降、本文書を使用しながら文書を引き継いできたのである。

【表2】『役場諸帳簿并諸道具附送帳』の年代別整理

年代	特徴	件数
1630～40年代 (寛永年間)	<u>山形藩領時代</u> 「縄打帳」「定納壱紙」「寛永年中免定」	3
1640～60年代	「上野村新田帳」「本田川欠」など土地・税関係の文書	8
1680～1700年代	「本田畠名寄帳」「新田畠名寄帳」をはじめ、土地・税関係の文書が多い ※元禄期から天保期まで、抜けもあるが「年貢割付状」が残る	10
1700～10年代	ほぼ「年貢割付状」	3
1720～43年	▼「田畠名寄帳」があるほか「卯川欠永引帳」「酉川欠永引帳」などが多い	12
1747～63年	<u>棚倉藩領時代</u> 「田畠名寄帳」をはじめ土地・税関係が多い	12
1763～87年	<u>佐倉藩領時代</u> 土地・税関係が多い ※安永期から天保期まで、抜けもあるが「皆済目録」が残る	9
1788～98年	<u>幕府預地時代</u> 土地・税関係のほか、「柴橋御役所ヨリ被仰出候控」といった法令関係、「五人組御仕置帳」「当村証文集手控帳」といった村政関係、さらに備荒・救済関係もみえはじめる	14
1799～1820年代	<u>以後、佐倉藩領時代</u> 「田畠名寄帳」「御林書上帳」など土地・税関係が多い	22
1830～44年 (天保年間)	土地・税関係はもちろん「粥人数取調書上帳」「村々社倉雜穀団被仰出」など備荒・救済関係が増加するほか、「御触書大澤登平」「公儀御触書之写」といった法令関係、「五人組御仕置証文」「子育方ニ付御奉行様御廻村入用」といった村政関係など多様な文書が残る	40
1845～68年	▼土地・税関係はもちろん「社倉積立小前書上帳」といった備荒・救済関係、「御廻状書留覚帳」といった法令関係、「郷藏建替ニ付普請方受取帳」「願書写留覚帳」といった村政関係など多様な文書が残る	34
1868～71年 (明治1～4年)	「願書写留帳」「鎮守氏神神佛堂書上帳」「若衆中議定」など多様な文書が散見される一方、「已年備穀社倉帳」「御拝借米書上帳」「村貯内々貸附帳」など備荒・救済関係が多い	28
1872～76年 (明治5～9年)	「検見帳」「地引帳」「地籍帳」など土地・税関係が多い	12
1888年 (明治21年)	「上諭」「明治廿壱年地押書類并ニ下絵図」	2
1900～20年代 (明治後・大正期)	「開墾願」といった土地・税関係、「上野区職員録 大正四年以降」「衛生組合規約」といった村政関係が多い	12
1920～30年代 (昭和期)	「区費徵収簿」「金員引継書」「上野規約書」といった村政関係が多い	13

*『役場諸帳簿并諸道具附送帳』のうち、年代がわかるものから作成。本表に載せていない年代不明のものは69件。「年代」は筆者が20年前後を目安として領主変遷も考慮しながら適宜区切った。「件数」は文書名の件数。

3.『役場諸帳簿并諸道具附送帳』に書き上げられた文書の特徴

それでは『役場諸帳簿并諸道具附送帳』には、どのような文書が書き上げられているのであろうか。書き上げられた文書を年代順に並べ替えた一覧は【別表】として末尾に掲載した。そのうち年代がわかるものを、20年前後を目安として領主変遷も考慮しながら整理したものが【表2】である。各期間に残された文書の特徴については、同表の「特徴」の欄を確認していただきたい。

ここでは【表2】を総じてみたときの特徴を整理しておこう。第一にあげられることは、全体を通して「名寄帳」「新田畠帳」「川欠永引帳」「御林書上帳」「地籍帳」など土地・税関係が多いという点である。とくに「年貢割付状」(免定)は元禄期から天保期、「皆済目録」は安永期から天保期まで、抜けている年はあるものの継続して残されている。

第二は、天保期から明治初期にかけて多種多様な文書が多数残されるようになった点があげられる。とくに「惣人数取調書上帳」「社倉積立小前書上帳」「已年備穀社倉帳」「御拝借米書上帳」「村貯内々貸附帳」といった備荒・救済関係が目立つ。この点については、天保4(1833)年から始まった佐倉藩の農政改革が関係しているものとおもわれる⁽⁷⁾。改革内容としては、①農民支配の要綱を網羅した五人組法令、②農政の基本方針を示した「在中江申渡」、③陰徳講という民間組織による「子育て」対策、④天保12(1841)年以来の社倉仕法などがあげられる。その点を踏まえて改めて【別表】を見てみると、①については「五人組御仕置証文」、②は「在中被仰出」、③は「陰徳講触書」「子育方ニ付御奉行様御廻村入用」、④は「社倉積立小前書上帳」など、農政改革に関する文書が多数残されていることがわかる。とくに社倉関係の帳簿については、「山形市蔵王上野文書」をみても、嘉永元(1848)年から明治2(1869)年にかけてほぼ毎年残されている。なお、同じ佐倉藩領であった山形市村木沢でも社倉関係の文書が天保12(1841)年から明治4(1871)年まではほぼ毎年残されている⁽⁸⁾。このように文書が残存していることから、天保期以降の農政改革、とくに社倉仕法は佐倉藩領の地域に大きな影響を与えていたことも指摘しておきたい。

第三としては、明治後期から昭和期になると村政関係が断片的に残される程度になったことがあげられる。なお、これらは『役場諸帳簿并諸道具附送帳』が作成された明治16(1883)年以降であるため、必要文書を追記しながら引き継

いできたのであろう。

以上のように『役場諸帳簿并諸道具附送帳』に書き上げられた文書を概観すると、蔵王上野では江戸前期から土地・税関係が残され、とくに天保期から明治期にかけて件数が多くなり、農政改革に関わる備荒・救済関係をはじめ多種多様な文書が残されたと整理できよう。

4. 文書管理の画期

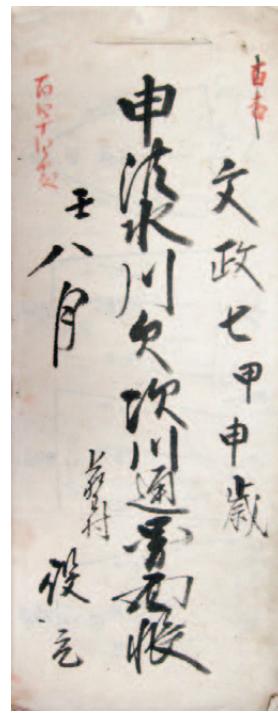
本節では『役場諸帳簿并諸道具附送帳』の記載内容と「山形市蔵王上野文書」から近世・近現代における文書管理の画期を検討してみたい。

まずあげられるのが、幕府預地となる天明8(1788)年である。例えば、『役場諸帳簿并諸道具附送帳』の78番には「天明八戊申年宝暦十三癸未年以來八月 去未迄御免定書改帳」とあり、該当する文書をみると再び佐倉藩領となった宝暦13(1763)年から幕府預地となる天明8(1788)年までの年貢関係の石高が書き上げられている。また、162番には「寛永廿未年右天明七未八月迄 御触書」とある。寛永20(1643)年は山形藩主保科正之が7月に会津に転封となり、翌年1月まで幕府領となつた時期にあたる⁽⁹⁾。それから幕府預地となる前年までの御触書をまとめた文書を作成したものとおもわれる。その他にも、83番に「天明八戊申二月

柴橋御役所右被仰出候控」、259番に「天明八年申二月 小物成書上」とある。259番については「山形市蔵王上野文書」に包紙が残されており、そこには「小物成上納方御尋ニ付柴橋御役所江差上候控」とあることから、幕府の代官所である「柴橋御役所」から小物成について書上げるよう問い合わせがあったことがわかる。このようにみると、幕府預地になるにあたり、これまでの年貢や御触書などの情報を整理したことがうかがえよう。

次は、文政後期から天保前期にかけての時期である。

【写真9】は『役場諸帳簿并諸



【写真9】『申洪水川欠須川通面帳』
《史料番号:2-4-1-6》

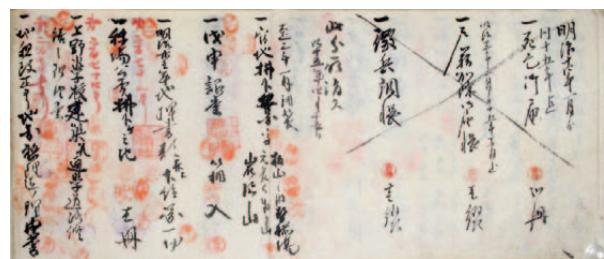
道具附送帳』に「文政七甲申八月 申洪水川欠須川通図面帳 壱冊 百四拾四番」と書き上げられた文書であり、表紙には朱書で「百四十四番」とある。このように目録と対象文書が照合できるわけであるが、ここで注目したいのは右隅にある「百番」という朱書が消されている点である。この取り消された朱書は、「百四十四番」という番号が付される前の段階で付されていた番号であろう。それが「百四十四番」と改めて番号を付すに際し、取り消したものとおもわれる。つまり、この取り消された朱書は、明治16(1883)年に『役場諸帳簿并諸道具附送帳』が作成される以前にも文書に番号を付して「引継目録」を作成していたことを示している。

こうした、以前に書かれた朱書番号を消した跡が確認できるのは、【写真9】の文政7(1824)年以前のものである。しかし、先ほど紹介した天保3(1832)年作成の「出羽国村山郡金井庄 湯沢郷 上野村高書上帳」（【写真6】参照）のように、天保期以降には朱書の取り消しは確認できない⁽¹⁰⁾。このようにみると、①ある時期に文政前期までの文書に番号を付した「引継目録」が作成されており、②また文政後期から天保前期以降に改めて番号を付けなおした「引継目録」が作成されたことになる。②は『役場諸帳簿并諸道具附送帳』にあたるのか、あるいは『役場諸帳簿并諸道具附送帳』はそれ以前に作成された「引継目録」で付した番号を踏襲したのかもしれないが、いずれにしても文政後期から天保前期を画期として文書管理方法に変更が加えられたことは指摘できるであろう。

明治期以降の画期については、戸長・区長の交代時期があげられる。例えば、【写真10】をみていただくと「明治十四年一月右同十五年迄 死亡御届」や「徴兵調帳」などが「×」で消されており、「此分取消ス 四十五年四月十五日」とある。また、文書ではなく道具が書き上げられた箇所であるが、【写真11】のように複数に朱書で「大正三年七月廿一日売払ヒ」と記されている。【表1】と照合するとわかるように、「（明治）四十五年四月十五日」と「大正三年七月廿一日」は区長交代時期にあたる。ここから、区長の交代時期に引き継ぐべき文書と道具の選別が行われていたことがわかるであろう。

また、筆者らが整理をした際、いくつかの文書はビニール紐などで括られており、なかには「S63 2/24 調査」「S63

2.8調」、さらには「昭和六十三年二月二十四日調査 上野史作りに参考となる資料」などといったメモ書があった。このメモ書から察するに、昭和63(1988)年に「上野史作り」のための内容調査が行われ、その際に、一部の文書を紐でまと



【写真10】『役場諸帳簿并諸道具附送帳』



【写真11】『役場諸帳簿并諸道具附送帳』

めるなどの整理がなされたのである。この調査では、目録作成や文書群全体の調査までは行われなかったようであるが、現在本学で行っている調査でも、ここでまとめられた秩序を記録しながら調査をすすめているため、文書管理の歴史としては記しておくべきであろう。

以上、非常に断片的ではあるが、現段階で確認できる文書管理の画期を確認した。『役場諸帳簿并諸道具附送帳』と「山形市蔵王上野文書」の照合、さらには朱書や合冊されている文書を丁寧に分析すると、より詳しい文書管理の画期が見出されるであろう。

5. おわりに

本論では、明治16(1883)年に作成された『役場諸帳簿并諸道具附送帳』の分析および「山形市蔵王上野文書」との照合をすすめ、近世・近現代における山形市蔵王上野地区の文書管理について検討した。

江戸時代、蔵王上野は数回の領主の変更を経験した。そのなかで文書管理の画期を確認できたのは天明8(1788)年であり、幕府預地になるにあたってこれまでの年貢や御触書などの情報を整理していた。また、文政前期以降に、少なくとも一度は「引継目録」を作成しており、その時に付した番号で文書を管理していた。その後、どこかの段階で改めて「引継目録」を作成し、新たに番号を付けなおしている。その目録が『役場諸帳簿并諸道具附送帳』であるのか、あるいはそれよりも古い段階で作成したものかは判然としないが、いずれにして

【表3】近世・近現代における蔵王上野の文書管理

年代	文書管理関連事項	目録作成	謝辞
天明 8(1788)年	幕府預地になるにあたり年貢・御触書等の整理	「引継目録」の作成	
文政後期～天保前期		(「引継目録」の作成)	
明治 16(1883)年	『役場諸帳簿并諸道具附送帳』を使用して戸長(区長)交代時に文書を引き継ぐ	『役場諸帳簿并諸道具附送帳』の作成	
明治 45(1912)年	文書の選別		
大正 1(1912)年	(区長交代時に行李で文書を引き継ぎ、区長宅で保管する仕組みが確認できる)		
昭和 14(1939) 年	▼		
昭和 63(1988) 年	「上野史作り」のため内容調査が行われ、一部の文書を紐でまとめる		
平成 11(1999) 年	上野ふれあいプラザ 21 敷地内に文書を収蔵する蔵が完成→以降、蔵内で文書を保管		
平成 26(2014) 年		東北芸術工科大学による調査開始…現在に至る	本論を執筆するにあたり、調査にお立会いいただいた池野勇男総代をはじめ蔵王上野地区の方々、写真撮影などにご協力いただいた清野翔子(本学歴史文化領域2016年度修了生)、三浦敦美・三村真心・柳澤もも(本学歴史遺産学科4年)、後藤彩佳・金野佑里(同2年)に、この場を借りて感謝申し上げます。

も、そこで付けた番号で管理していた。

明治16(1883)年から昭和14(1939)年までは、『役場諸帳簿并諸道具附送帳』を使用して戸長・区長交代時に文書を引き継いでおり、その際、文書の選別が行われることもあった。なお、大正元(1912)年には、区長交代の際に文書を入れた行李を引き継ぎ、その行李は区長が自宅で保管するという仕組みがあったが、平成11(1999)年以降は、地域で建てた蔵で収蔵している。また、昭和63(1988)年には「上野史作り」のための内容調査が行われ、その際に、一部の文書を紐でまとめるなどの整理がなされたものとおもわれる。さらに、平成26(2014)年からは本学で目録の作成を開始し、現在に至っている。

以上、蔵王上野の文書管理の歴史の一端を整理した。これらの情報をまとめたものが【表3】である。非常に断片的ではあるが、本論で明らかにしたことは「山形市蔵王上野文書」を活用するにあたっての基礎的情報になるであろう。また、文書の残り方から天保期以降の農政改革が与えた地域への影響の大きさを指摘したが、これは佐倉藩政研究に対するひとつの課題提起としたい。さらに、地域の方々にとっても先祖がどのように文書を管理してきたのかを知ることで、今後の文書保存について考えるひとつのきっかけになれば幸いである。

本論は調査途中の成果であるため、今後の調査によって加筆はもちろん修正される点がでてくるかもしれない。いずれにしても、本論をたたき台として蔵王上野の文書管理研究をより深めて行きたい。

《註》

- (1) 蔵王上野の概要については、特記しない限り「角川日本地名大辞典」編纂委員会編『角川日本地名大辞典 6 山形県』(角川書店 1981年)、平凡社地方資料センター編『日本歴史地名大系 第六卷 山形県の地名』(平凡社 1990年)を参照した。
- (2) 幕府預地の期間については、木村健・杉本敏夫編『譲代藩政の展開と明治維新一下総佐倉藩一』(文雅堂銀行研究社 1963年)を参照した。
- (3) 文書保管については、中村只吾「解題 地区の概要および文書伝來の経緯」『山形市蔵王上野文書目録』(東北芸術工科大学 2017年)を参照した。
- (4) 東北芸術工科大学編『山形市蔵王上野文書目録』(東北芸術工科大学 2017年)。
- (5) 前掲註(3)書。
- (6) なお、『役場諸帳簿并諸道具附送帳』には道具も書き上げられているが、本論では基本的に文書のみを扱った。
- (7) 天保期農政の展開については前掲註(2)書を参照した。
- (8) 東北芸術工科大学・古文書調査会編『山形市村木沢文書目録』(東北芸術工科大学 2018年)。その一部は、山形市史編集委員会編『山形市史資料 第45号』(山形市 1976年)に収録されている。
- (9) 横山昭男『シリーズ藩物語 山形藩』(現代書館 2007年)。
- (10) 『役場諸帳簿并諸道具附送帳』と「山形市蔵王上野文書」の照合作業は未だ継続中である。そのため、今後の作業によっては異なる傾向がみられる可能性があることを付記しておく。

【別表】『役場諸帳簿并諸道具附送帳』年代順一覧

区分	年月	文書名	点数
1630～ 1640年代 (寛永年間)	寛永 15(1638)年 9月	繩打帳	立紙 6 冊
	寛永 16(1639)年 3月	定納壱紙	立紙 1 本
	[寛永]	寛永年中免定	1 本
1640～ 1660年代	慶安 1(1648)年 4月	戌亥子新田繩打帳	横帳 1 冊
	慶安 5(1652)年 10月	上野村新田帳	横帳 1 冊
	万治 2(1659)年 10月	亥之年本田川欠	横帳 1 冊
	寛文 1(1661)年 5月	上野村田畠成帳	横帳 1 冊
	寛文 3(1663)年 10月	卯年ヨリ半郷繩下	横帳 1 冊
	寛文 4(1664)年 10月	畝引米之覚	横帳 3 枚
	寛文 6(1666)年 10月	本田川欠	横帳 1 冊
	寛文 7(1667)年 10月	辰起新田	横帳 1 冊
1680～ 1700年代	貞享 4(1687)年 8月	上野村新開帳	立帳 1 冊
	貞享 5(1688)年 10月	板山口御払隔間山預リ山ニ割賦仕帳	横帳 1 冊
	元禄 1(1688)年 10月	上野村新田帳	立帳 1 冊
	元禄 1(1688)年 10月	上野村田畠成帳	立帳 1 冊
	元禄 2(1689)年 5月	上野村新田畠帳	立帳 1 冊
	[元禄 3(1690)年]	元禄三庚午半枯漆改帳	横帳 1 冊
	元禄 4(1691)年 9月	上野村新田畠改帳	立帳 1 冊
	元禄 16(1703)年 7月	本田畠名寄帳	横帳 4 冊
	元禄 16(1703)年	新田畠名寄帳	横帳 1 冊
	[元禄 1・2・3・4・7・ 8・12・13・14年]	元禄年中免状	9 本
1700～ 1710年代	[宝永 1・2・3・5・6・7年]	宝永年中免定	6 本
	[正徳]	正徳年中免定	1 本
	享保 1(1716)年 12月	田畠質地証文帳	1 冊
1720～ 1743年	享保 8(1723)年 10月	卯川欠永引帳	横帳 1 冊
	享保 14(1729)年 10月	酉川欠永引帳	横帳 1 冊
	享保 17(1732)年 10月	田畠名寄帳 外ニ見込五冊	横帳 4 冊
	享保 19(1734)年 10月	寅川欠永引帳	横帳 1 冊
	享保 20(1735)年 1月 11日	柳嶋入口惣山守ニ割賦間数帳	横帳 1 冊
	享保 20(1735)年 10月	卯川欠永引帳	横帳 1 冊
	[享保 1・10・13・17・19年]	享保年中免定	5 本
	元文 2(1737)年 3月	長板下山神境山守預リ山再吟板山御払隔間山再吟帳	横帳 1 冊
[元文 4(1739)年]	寛文元丑五月 永荒畠帳 横帳 壱冊		
	元文三午三月 前々田畠成 壱冊		
	午御検見帳 畑田成出調 寛文三卯十月 壱枚		
	寛文十一亥十一月 畑田成改覚 弐枚		
	卯之起新田 寛文六午十月 弐枚		
	田畠二成覚 寛文十一亥十一月 弐枚		
	田之堤ニ成覚 寛文十三丑七月 壱枚		
	元禄十五八月 無高新田之事 御ノ繩不入 新田畠改帳 御勘定所		
	差上候控 横帳		
	同断 弐竿不入新田畠改帳 壱冊		
48	同断 畑之田ニ成改覚 同 畑之田ニ成改覚 壱枚		

区分	年月	文書名	点数
1720～ 1743年	[元文 4(1739)年]	御勘定所へ差上候控 元文四未十二月 無高新田畠改帳 堀田相模 守様御代ニ渡ル 壱冊 右十一筆大帳壹冊ニ成ル	1 冊
	寛保 2(1742)年 10 月	田畠成斗代違	横帳 2 冊
	寛保 2(1742)年 10 月	戊永引帳	1 冊
	[寛保 1・2・3 年]	寛保年中免定	3 本
1747～ 1763年	延享 4(1747)年 8 月	田畠名寄帳	横帳 3 冊
	[延享 2・3 年]	延享年中免状	2 本
	寛延 1(1748)年 12 月	田畠并流地質地判頭致候覺	横 1 冊
	[寛延 1・2 年]	寛延年中免状	2 本
	延享 6(1749)年 9 月	漆木數之抜書覺	横帳 1 冊
	宝暦 1(1751)年 12 月	田畠流地之証文控	立帳 1 冊
	宝暦 3(1753)年 3 月	他領居住古切支丹之類族□□□帳	立帳 1 冊
	宝暦 3(1753)年 10 月	上野村西年荒地永引帳	横帳 1 冊
	宝暦 5(1755)年 10 月	棚倉領上野村草高帳	1 冊
	宝暦 7(1757)年 10 月	上野村丑年損地	横帳 1 冊
	[宝暦 9(1759)年]	宝暦九年卯七月金三拾七両壹分村方ニテ借用 致ス村役人奥印并割元奥印ニ付借用証文壹通 但名主五右衛門代	1 通
	[宝暦 3・4・5・6・7・ 8・11・12・13 年]	宝暦年中免定	9 本
1763～ 1787年	明和 2(1765)年 10 月	無高新田畠改帳控	横帳 1 冊
	明和 7(1770)年	五ヶ年賦米拵借入并年々上納元帳	1 冊
	[明和 1・2・3・5・6・7・ 8・9 年]	明和年中免定	8 本
	安永 3(1774)年 1 月	御水帳書抜	立帳 1 冊
	[安永 2・3・4・5・6・ 7・8・9 年]	安永年中免定	8 本
	[安永 2・3 年]	二九本三壱本 安永年中皆済目録	11 本
	天明 1(1781)年 5 月	新規山分ヶ面附帳	横帳 1 冊
	天明 6(1786)年 7 月	田畠名寄帳	横帳 4 冊
	[寛永 20(1643)年～ 天明 7(1787)年 8 月]	寛永廿未年ヨリ天明七未八月迄 御触書	1 冊
	天明 8(1788)年 2 月	柴橋御役所ヨリ被仰出候控	立帳 1 冊
1788～ 1798年	天明 8(1788)年 2 月	小物成書上	1 本
	天明 8(1788)年 9 月	改出見取内見合附	1 冊
	天明 8(1788)年 11 月	小物成書上帳	立帳 1 冊
	天明 8(1788)年	宝暦十三癸未年以来八月 去未迄御免定書改帳	1 冊
	[天明 1・2・3・4・5・ 6・7・8 年]	天明年中免定 天明年中ハ壱本ニテ他ハ雑本	8 本
	寛政 1(1789)年 7 月	荒地高反別小前帳	横帳 1 冊
	寛政 1(1789)年 9 月	諸方御用留書帳	立帳 1 冊
	寛政 1(1789)年	五人組御仕置帳	1 冊
	寛政 2(1790)年 2 月	諸方留書帳	立帳 1 冊
	寛政 2(1790)年 7 月	古方諸口年賦夫喰種糲年季不内ニ而年賦返し 小前面附取立帳	1 冊
	寛政 5(1793)年 5 月	当村証文集手控帳	1 冊

区分	年月	文書名	点数
1788～ 1798年	[寛政9(1797)年]	堀田様御分古下り年賦返納寛政八年分当納内 九年六月中年送り御取立小前割賦取取帳	横帳5冊
	[寛政10(1798)年]	前々永荒引寛政元酉ヨリ午迄十ヶ年起返り 御公料之節ヨリ當御領分ニ相成改直し割賦帳	1冊
1799～ 1820年代	寛政11(1799)年8月	御尋ニ付書上帳	立帳1冊
	[寛政1・2・3・4・5・6・ 7・8・9・10・11・12年]	寛政年中皆済目録	12本
	[寛政]	寛政年中免状	12本
	享和2(1802)年3月	御林書上帳	立帳1冊
	享和3(1803)年7月	田畠名寄帳	横帳4冊
	[享和1・2・3年]	享和年中免定	2本
	[享和1・2・3年]	享和年中皆済目録	3本
	[文化5(1808)年7月]	文化五辰七月ヨリ 田畠高抜出入留帳	横1冊
	文化10(1813)年9月	越石高訛控帳	横1冊
	文化10(1813)年10月	山神越石高本改帳	横1冊
	文化12(1815)年2月	御請書	立帳1冊
	文化12(1815)年6月	田畠反別取米引米書上帳	立帳1冊
	文化12(1815)年9月	御林書上帳	立帳1冊
	文化7(1810)年2月 文化14(1817)年	困窮百姓御救米願上帳	2冊
	[文化2・3・4・5・6・7・ 8・10・11・12・13・14年]	文化年中皆済目録	11本
1830～ 1844年 (天保年間)	[文化3・4・5・6・7・8・ 9・10・11・12・13・14年]	文化年中免定	10本
	文政3(1820)年3月	御林書上帳	立帳1冊
	文政4(1821)年10月	御林書上帳	立帳1冊
	文政7(1824)年8月	申洪水川欠須川通図面帳	横1冊
	[文政11(1828)年]	小物成御役割賦帳 但文政十一亥年ヨリ高差 引有茂吉代ヨリ茂三郎通用	横1冊
	[文政1・2・3・4・5・6・ 7・8・10・11・12・13年]	文政年中免定	12本
	[文政1・2・3・4・5・6・ 7・9・10・11・12・13年]	文政年中皆済目録	12本
	天保3(1832)年2月	出羽国村山郡金井庄湯澤郷 上野村高書上帳	1冊
	天保4(1833)年11月	田方日々見廻り稻荷数取調書上帳	横1冊
	天保5(1834)年1月	粥人数取調書上帳	立帳1冊
	[天保5(1834)年]	甚内口山守中根野山一件ニ付四人之簽名寄書 抜改帳并ニ絵図面天保四五兩年之分高數家數 御改書上控	1袋
	天保6(1835)年1月	御請書	立帳1冊
	天保6(1835)年3月	五人組御仕置証文	立帳1冊
	天保6(1835)年9月	未麥蒔附書上帳	横1冊
	天保6(1835)年10月	未田方刈束取調帳	横1冊
	天保6(1835)年11月	在中被仰出	立帳1冊
	天保6(1835)年12月	田畠譲地反別書抜帳	1冊
	天保7(1836)年4月	田畠地破内検帳	横4冊
	天保8(1837)年4月	急廻状田内与七郎	1冊
	天保8(1837)年12月	御触書大澤登平	1冊
	天保9(1838)年12月	茂作高備金山壳金村備相改帳	横1冊

区分	年月	文書名	点数
1830～ 1844 年 (天保年間)	天保 9(1838)年	御尋ニ付書上帳	1 冊
	天保 10(1839)年 6 月	子育方ニ付御奉行様御廻村入用	1 冊
	天保 11(1840)年 4 月	御取締書	立帳 1 冊
	天保 11(1840)年 4 月	陰徳講触書	1 冊
	天保 11(1840)年 12 月	田方反別小前銘細帳	3 冊
	天保 12(1841)年 8 月	山方御米貸附明細調帳	横帳 1 冊
	天保 12(1841)年 10 月	村々社倉雜穀圃被仰出	1 冊
	天保 12(1841)年 12 月	奉差上御請書	1 冊
	天保 12(1841)年 12 月	社倉被仰出候ニ付村々心得被申渡帳	1 冊
	天保 12(1841)年 12 月	廻状石井惣太夫	1 冊
	天保 12(1841)年 12 月	社倉積立小前取調帳	横大帳 1 冊
	天保 12(1841)年 12 月	社倉積立小前取調帳	11 冊
	天保 13(1842)年 2 月	廻状大澤雅治郎	1 冊
	天保 13(1842)年 7 月	田方刈稻ハセカケ千方申渡帳	1 冊
	天保 13(1842)年 11 月	御請書	立 1 冊
	天保 14(1843)年 6 月	急廻状古川水右衛門	2 冊
	天保 14(1843)年 7 月	家作改書上帳	横 1 冊
	天保 14(1843)年 8 月	公儀御触書之写	1 冊
	天保 14(1843)年 11 月	御請書	1 冊
	天保 15(1844)年 9 月	辰麦蒔附書上帳	横 1 冊
	天保 15(1844)年 10 月	山野并隣村境改帳	横帳 1 冊
	天保 15(1844)年 10 月	廻状大澤様ヨリ	1 冊
	天保 15(1844)年 12 月	御触書	立 1 冊
〔天保 2・3・4・5・6・7・ 8・9・10・11・12・13・ 14・15 年〕	天保年中免定		14 本
	〔天保 3・4・5・6・7・8・ 9・12・13・14・15 年〕	天保年中皆済目録	10 本
	〔天保〕	天保年中免定 小平治代	21 本
1845～ 1868 年	弘化 2(1845)年 7 月	御賄入用取調書上帳	横 1 冊
	弘化 2(1845)年 11 月	御主役様ヨリ御用捨	1 冊
	弘化 2(1845)年 12 月	願書写留帳	横 1 冊
	弘化 3(1846)年 1 月	郷藏建替ニ付普請方受取帳	1 冊
	弘化 3(1846)年 2 月	郷藏建替ニ付人足帳 小走善四郎	1 冊
	弘化 3(1846)年 8 月	御廻状書留覚帳	1 冊
	弘化 3(1846)年 8 月	年賦拝借証文	立帳 1 冊
	弘化 3(1846)年 8 月	年賦拝借金取立帳	1 冊
	弘化 3(1846)年 10 月	急廻状割元	立帳 1 冊
	弘化 3(1846)年 10 月	田方取米銘々取調帳	1 冊
	弘化 4(1847)年 5 月	願書写留覚帳	横 1 冊
	弘化 5(1848)年	質地書入証文控帳	1 冊
	嘉永 1(1848)年 10 月	田畠地割年増広々罷成内見帳	1 冊
	〔嘉永 1(1848)年〕	嘉永元戊申年仁三郎相続御田地并ニ書上帳 壱冊 御役所願書御割元御届書 壱冊 高湯村長右衛門青根道新道証文 武通 仁三郎御百姓相続相成候田畠反別調書上帳	
	嘉永 2(1849)年 5 月	田畠高反別仕訣帳	立帳 1 冊

区分	年月	文書名	点数
1845～1868年	嘉永2(1849)年12月	巳年拝借米拾ヶ年賦返納取立帳	横帳1冊
	嘉永2(1849)年	田畠譲地証文控帳	2冊
	嘉永4(1851)年3月	御取締并子育廻村ニ付申渡帳	1冊
	嘉永5(1852)年1月	村備金貸附相改帳	横1冊
	〔嘉永5(1852)年〕	嘉永五ヨリ 社倉積立小前書上帳	21冊
	嘉永6(1853)年	烟高小前明細帳	1冊
	嘉永7(1854)年7月	村備金貸附撰上帳	1冊
	嘉永7(1854)年8月	先後地割田方畠ニ相成并ニ荒所書訣帳	1冊
	嘉永7(1854)年	同〔若衆中議定〕証書	2本
	安政2(1855)年7月	卯三月類焼人拝借金五ヶ年賦取立帳	1冊
	安政2(1855)年	社倉種痘御受書写	1冊
	安政3(1856)年1月	百石五両御用金取立帳	1冊
	安政4(1857)年9月	已御検見洪水砂押先地割御案内帳	1冊
	天保15(1844)年・嘉永2(1849)年・安政4(1857)年	持高小前銘々帳	横3冊
	安政5(1858)年	御林御見分帳	1冊
	万延1(1860)年12月	当秋麦薄候分立附場書上帳	1冊
	万延1(1860)年	質地書入証文控帳	1冊
	慶応2(1866)年	村助米留帳	1冊
	慶応4(1868)年	炭焼ニ付御米請取証文	2冊
1868～1871年 (明治1～4年)	明治2(1869)年11月	巳違作ニ付御拝借種穀代附帳	1冊
	明治2(1869)年12月	合扶持御拝借人数書上帳	1冊
	明治2(1869)年	巳年備穀社倉帳	1冊
	明治2(1869)年	辰社倉備穀拝借	1冊
	明治2(1869)年	巳年備穀社倉拝借書上帳	1冊
	明治2(1869)年	願書写留帳	1冊
	明治2(1869)年	巳立馬御改御米書上帳	1冊
	明治3(1870)年6月	御拝借米書上帳	1冊
	明治3(1870)年	御拝借米諸口銘々書上帳	1冊
	明治3(1870)年	午社倉穀百俵貸付帳	1冊
	明治3(1870)年	諸人足札手控取調帳	1冊
	明治3(1870)年	村貯穀取立調帳	1冊
	明治3(1870)年	鎮守氏神神仏堂書上帳	1冊
	明治3(1870)年	当村田畠風當ニ付御手当米割賦帳	1冊
	明治3(1870)年	午仕附夫食貸附覚帳	1冊
	明治3(1870)年	午立馬書上帳	1冊
	明治3(1870)年	山形県ヨリ御達ニ付門札持高調帳	1冊
	明治3(1870)年	午御収納米雪中夫食貸附帳	1冊
	明治3(1870)年	若衆中議定	1本
	〔明治3(1870)年〕	明治三年御免状	1本
	明治4(1871)年5月	新閑堀田事件ニ付 村議定書	1本
	明治4(1871)年	太政官ヨリ夫米被成下割賦帳	1冊
	明治4(1871)年	村貯内々貸附帳	1冊
	明治4(1871)年	第七区拾壹番上野村五人組書上帳	1冊
	明治4(1871)年	未田植夫食貸附帳	1冊
	明治4(1871)年	柏倉御拝借米諸明細帳	1冊
	明治4(1871)年	半郷御縄下内見帳	1冊
	明治4(1871)年	柏倉ヨリ返納拝借米面附帳	1冊

区分	年月	文書名	点数
1872～ 1876 年 (明治5～9年)	明治 5(1872)年 1 月	田畠反別銘々取調帳	1 冊
	明治 7(1874)年	検見帳	7 冊 外ニ 1 冊
	明治 7(1874)年	地引帳	3 冊
	[明治 5(1872)年～ 明治 7(1874)年]	明治五年ヨリ七年迄仮免状	3 年分
	明治 8(1875)年	地租改正ニ付仮仕出	立紙 1 冊
	明治 8(1875)年	地租改正反別調査之証	2 緡
	明治 8(1875)年	地籍帳 此分取消ス	本帳 2 冊
	明治 8(1875)年	地価帳	5 冊
	明治 9(1876)年 10 月	地籍取調帳	1 冊
	明治 9(1876)年	押借証書	1 冊
	明治 9(1876)年	高湯村新田起ニ付済口証	1 本
	明治 9(1876)年	地籍帳下調 山林草山 壱冊	3 冊
1888 年 (明治 21 年)	明治 21(1888)年 4 月 17 日	上諭	1 枚
	[明治 21(1888)年]	明治廿壹年地押書類并ニ下絵図	一切
1900～ 1920 年代 (明治後・ 大正期)	明治 42(1909)年 2 月 23 日	戊申詔書	1 枚
	大正 1(1912)年 8 月	開墾願	19 冊
	大正 1(1912)年 11 月	開墾願	17 冊
	大正 3(1914)年 1 月	官地払下地図	1 冊
	[大正 3(1914)年 1 月]	大正三年一月調整 官地払下地図字板山之内勢 揃場元長く森山岩沢山	
	[大正 4(1915)年]	上野区職員録 大正四年以降	1 冊
	大正 9(1920)年 11 月	学校農産物品評会台帳	1 冊
	[大正 11(1922)年]	寄附台帳 大正拾一年以降	1 冊
	[大正 12(1923)年 3 月]	衛生組合規約 大正十二年三月改訂	7 冊
	大正 14(1925)年 2 月	柳平壳却書類 天神境内処分書類	1 冊
	大正 14(1925)年 4 月	納税完納組合規約	1 冊
	大正 14(1925)年	事務所修繕普請日誌	1 冊
	[昭和 3(1928)年]	備品台帳 昭和三年有改	1 冊
	[昭和 3(1928)年]	山林保護組合国有林払下書類 昭和三年以降	1 冊
1920～ 1930 年代 (昭和期)	[昭和 3(1928)年]	国有林輪代願許可書綴 外一件 昭和三年以降	
	昭和 7(1932)年 12 月	新堰問題覚書 上野半郷	
	昭和 8(1933)年 12 月	上野世帯主名面	1 冊
	[昭和 8(1933)年]	区費徵収簿 昭和八年以降	1 冊
	[昭和 8(1933)年]	金員引継書 昭和八年以降	1 冊
	昭和 10(1935)年 10 月	金瓶上野間村道	7 冊
	昭和 10(1935)年	凶作対策義捐金領収証	1 冊
	昭和 11(1936)年 6 月	土地賃貸価格調査資料	1 冊
	[昭和 11(1936)年]	堀田第二小学校 復興経費簿 昭和十一年十一月七日焼失ニ付	1 冊
	昭和 12(1937)年 1 月 2 日	上野規約書	1 冊
	昭和 14(1939)年	田畠購入肥料配給申告	1 冊
年代不明		縄打名寄帳	立帳 4 冊
		永引帳	横帳 1 冊
		村絵図	7 枚
		御旧領之節返号 皆済目録	12 本
		高湯村入水ニ付取置候証文控 本紙共ニ	2 通

区分	年月	文書名	点数
年代不明		堰扶持米願書	立紙 2通
		御尋ニ付乍恐以書付奉申上候	立帳 1冊
		無上紙山分ヶ帳	1冊
		小前存意之趣有躰ハ奉歎上口上之覚写	1冊
		御田地一件取計御内々奉入御覽之上野村五右衛門組合中山ノ神村相手九郎兵衛	1冊
		出入済口并ニ各々誤証文	立 1束 23本
		当村甚内ヨリ小倉村又三郎へ貸金一件 済口証類当村茂兵衛喜惣治山族悪党共へ懸合 済口証類当村道口相続ニ付縹合済口書類伊勢 参宮ニ付御代官様ヨリ御閑所通証文壱通 右 四筆壹袋入	1袋
		当村庄屋金七代為村方西里村善五郎方ヨリ金 子借用仕返済滞候ニ付長瀬御役所ヨリ御文通 ニ被成済方証文	1通
		御上様ヨリ品々請取入	1束
		色々願書入	1袋
		田畠反別仕訳御年貢諸上納物調帳書	立帳 1冊
		金谷村御繩下反別書抜覚帳	横 1冊
		田畠譲地立附反別越石斗改金高	1冊
		川欠山崩撰上帳ト相見得申候	1冊
		長坂山壳代金山守中割賦帳 上野村役元	
		河岸雜用船町入用 上ノ山無尽出入之割 吉 原道 普請人足雇請 割賦帳	1冊
		郷藏斗屋並建替入用取調帳	1冊
		村備金利足米盛附帳	1冊
		願書留帳	3冊
		質地書入証文	4冊
		未申洪水砂押分御検見帳	1冊
		未別家書上帳	1冊
		小倉山へ上野村ノ者共木伐札ノ義ニ付願書	1本
		山形県雛形并ニ神々除地書上共ニ	16冊
		山形県ヨリ之御廻状留	5冊
		諸証文類有之 拾本 諸証文類有之 弐本 諸証文類有之 三本 上証文 弐本 此分壹 束ノ數不分 右之内拾三本受取	13本
		皆済目録	6本
		御布告廻状	2冊
		高湯山神出入済口其外有之 此分受取不申候	諸通
		山神新堰一件願書	1冊
		同〔山神新堰一件〕済口	1冊
		当村用水ニ付高湯出入済口	1冊
		草山取消ス書付	1枚
		立附米調帳 半郷村 高湯村 金瓶村 黒沢村	4冊
		御真書筆	1本
		諸証文集	壱束 28本
		差出証	1本
		同〔地引帳〕図面弐枚耕地正絵図共ニ	

区分	年月	文書名	点数
年代不明		山形宮城裁判書	2 冊
		小前名寄帳	横帳 3 冊
		争論二付鏡絵図	5 枚
		土地台帳	15 冊
		地押書類	
		地押字地図 大平五冊 辰ノ口三冊 南坂五冊 中嶋壱冊 上平壱冊 若瀬壱冊 一村全図	
		官有地下戻書類	1 級
		草山地引絵図及地籍帳訂正□	1 冊
		田用水□へ調据付書類	1 袋
		戊申証書	箱入
		秩場公壳払下ヶ之記	1 冊
		上野小学校建築并通学道路修繕之理由書	
		地租改正ヨリ地図整理迄ノ理由書	
		共同墓地増設記録	1 冊
		上野公会堂改修工事記録 附清算書	1 冊
		上野	
		誤謬地納租願 上野村	5 冊
		土地分割訂正願	4 冊
		土地分割訂正願	9 冊
		勅語 大喪ニ関スル	1 枚
		来翰綴	16 冊
		片倉山払下地図	1 枚
		諸雑書綴	1 部
		村山山林保護会賞銀盃	大小 1 個づつ
		同上〔村山山林保護会賞〕木盃	1 個
		木盃 山林保護会ニ対スル秋田営林局ノ表彰品	3 合組

※『役場諸帳簿並諸道具附送帳』を年代順に並べ替えて整理。「区分」は筆者が20年前後を目安として領主変遷も考慮しながら適宜区切った。
「年月」「文書名」欄にある「〔 〕」は筆者の推定。「□」は判読できなかった文字。